



新潟市立江南小学校

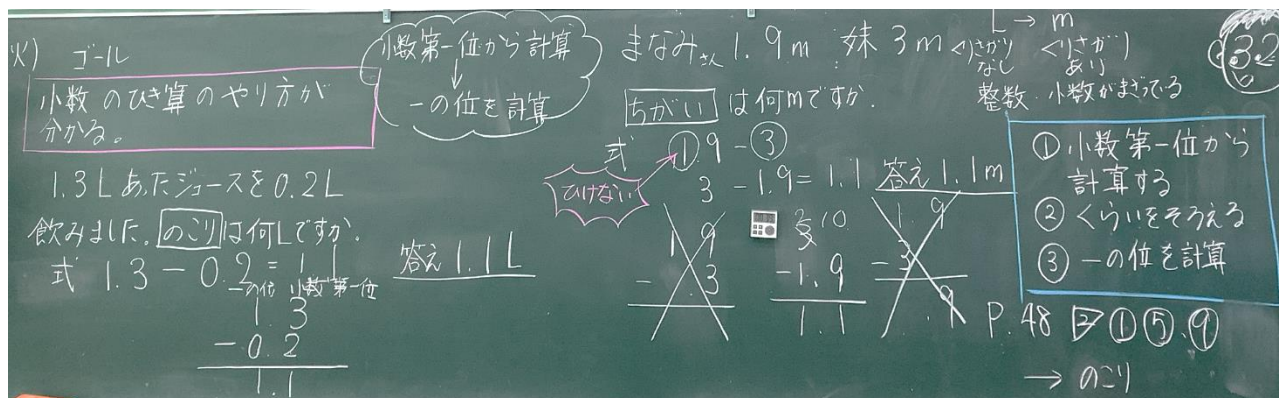
令和7年7月3日

考える部便り No.11

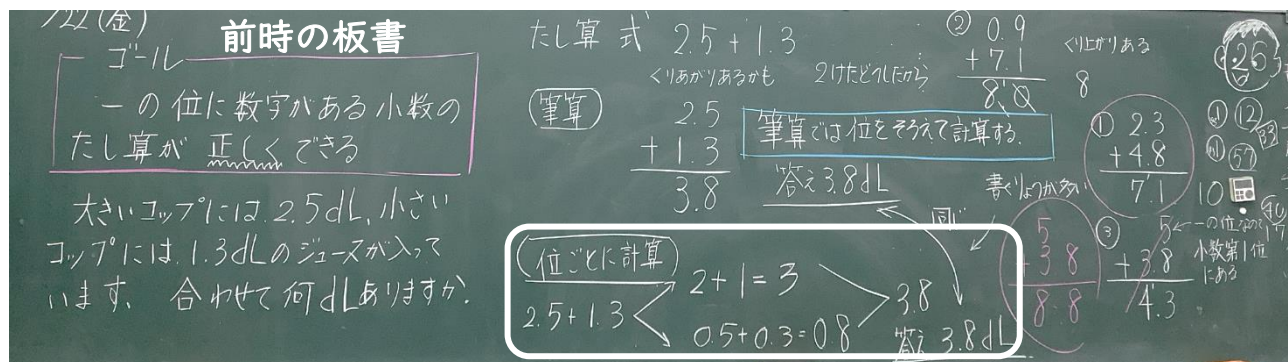


ご感想・研修へのご意見
お待ちしております。←

どのように学びの「解像度」を上げるか



昨年度小数のひき算の筆算を学習したときの板書です。この時間のゴールは、筆算の手順が分かることです。2問目に1.9mと3mの違いを求める問題があり、ある子が $1.9 - 3$ と立式し、答えを1.6していました。その理由を尋ねると、「(問題文で)1.9の方が先に書いてあったから」と話してくれました。周りの子どもたちは、その子の気持ちに寄り添いながら、前時で学習した小数のたし算の筆算の手順を根拠に「位がそろえること」の大事さを伝えていました。



その子は、その説明では納得できませんでしたが、前時に学習した「位ごとに計算」を思い出し、小数第一位の数字から一の位の数字を引いていることの矛盾に気付くことができました。その後、式を訂正し、正しい筆算のやり方で答えを導き出すことができました。



次の時間に、子どもたちに「算数の授業は、ブルーム・タキソノミーだと、どの学びだと思いますか」と尋ねると、理由も付けて「応用する」だと判断する子が多く、「分析する」という子も少しいました。「先生も『応用する』の授業だと思って、準備しました。でも、皆さんは、前の授業で学習したことと今日の学習を結び付けて話していたので、より難しい『分析する』になっていた人もいたと思います。すごいですね。」と伝えました。タキソノミーを基に、子どもたちと対話しながら、自らの学びを「解像度」を上げていきたいです。

(文責：植田一宏)